

2024. 11. 9開催

大阪狭山市議会 議会報告会の報告

目 次

■開催の状況	P 2
■議会報告会の様子	
◎ 『第1部 議会の報告』	P 3
▼9月定例会月議会の報告	P 3
◎ 『第2部 市民との意見交換会』	P 4
▽Aグループ	P 4
▽Bグループ	P 6
■市議会での市の関連答弁（抜粋）	
▽代表質問	P 12
▽個人質問	P 13

開催の状況

●開催日時 令和6年11月9日（土） 午後2時から午後4時まで

●開催場所 市立コミュニティセンター 大会議室

●出席議員 全議員14名（50音順）

Aグループ（総務文教常任委員）			
池永 裕樹	北 好雄	鳥山 健	中野 学
西野 滋胤	深江 容子	山本 尚生	

Bグループ（建設厚生常任委員）			
北村 栄司	久山 佳世子	小芝 英俊	中井 勝也
花田 全史	松井 康祐	山本 あさみ	

●一般参加 22名

議会報告会の様子

◎『第1部 議会の報告』

第1部では、令和5年度（2023年度）歳入歳出決算の状況や条例の審査状況など、9月定例会議会の内容について報告しました。

▼9月定例会議会の報告

1. 令和5年度（2023年度）一般会計歳入歳出決算について

令和5年度の一般会計の決算額は、歳入総額が239億7,223万円、歳出総額は234億4,985万円、歳入歳出差引額は5億2,237万円、翌年度へ繰り越すべき財源として6,630万円、実質収支額は4億5,608万円の黒字となりました。

予算決算常任委員会において一般会計歳入歳出決算を審査したところ、「国民・市民を苦しめ、地方自治体の財政状況にも大きな影響を与えている国の政治のあり方に対する怒りの声の表明として不認定とする」、「大企業優先、軍事費の拡大ではなく、本市自治体への支援の拡大を強く求めて不認定とする」などの反対の意見や、「市民ニーズに対応する様々な事業を適切に展開しており、引き続き限られた財源や人材を有効に活用し、持続可能な行財政運営に努めることを要望し賛成する」などの賛成の意見があり、賛否両論の討論が行われた後、採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決されました。

2. 条例改正や補正予算などの議案について

主な条例改正として、持続的な下水道事業サービスを続けていくため、安定した財源の確保が必要であることから、現在の使用量に応じた料金区分の細分化や使用料金を改定する下水道条例の一部改正について説明しました。その他、大阪・関西万博における大阪ウィーク自治体参加催事の準備にかかる経費や、文化会館や旧くみの木幼稚園の施設改修、市役所本庁舎駐車場等の整備工事費、住民情報システムの標準化に向けた経費などを計上する令和6年度一般会計補正予算（第4号）について説明し、賛否の意見と合わせて、審査結果についても報告しました。

◎『第２部 市民との意見交換会』

第２部では、「大阪狭山市のめざす姿」をテーマとして、２グループに分かれ、自由に意見を述べていただきました。

前回に引き続き、グループワーク形式で実施させていただいたことにより、ご参加いただいた市民の皆様から数多くのご意見をお聞きすることができました。皆様からいただいたご意見やご要望などにつきましては、本市の行政側に対しても必要なものはお伝えし、各議員の議会質問などの参考とさせていただくとともに、本市議会の活動をさらに充実するために活用させていただきます。

▼各グループにおける意見交換の状況

Aグループ

◎議会・議会報告会

最近では、議会の報告よりも意見交換会が中心となっていることから、予算・決算の報告の２回開催ではなく、回数を定例会ごとの４回に増やしてほしい。

議会報告会の人数が少なくなっていることが問題というが、少なくても何が悪いのか。参加人数関係なしに開催してほしい。

次回の報告会では、意見を聞いてその後どうしたのかという結果を示してほしい。

議会の慣習が古臭い。全くオープンになってないと感じる。

議会のYouTube生中継のアーカイブを残してほしい。ホームページに録画映像が掲載されるまでの約１０日間は審議の様子を確認できない。

◎まちづくり

見える化が徹底したまちづくりに挑戦してほしい。

西山台旧公団は民間の土地であるため、助言もなく放置されている。高齢化率も相当高い。面積・人口を多く占める地域であるが、大阪狭山市のめざす姿の中にどう位置づけるのか。

【★一般質問】

亀の甲交差点付近の飲食店等も立ち退くなど、市内に商業施設が少なく、現役世代がお金を落とせる場所がない。都市計画を見直してほしい。
若い人に向けて、大阪狭山市の魅力を発信する方法はなにかあるのか。
府営住宅の建て替えに際して、若い世代が入居できる方法を大阪府に考えてほしい。市から大阪府に対して要望してほしい。
農地を維持することはとても大変であり、緑地を残したいという市の姿勢はいかがか。現状を理解してほしい。
◎地域活動
地域活動の人材が不足している。自治会を解散する地域が増えている。自治会はあるのか、いらないのかを行政がはっきりと決めてほしい。行政は自治会の加入・非加入関係なく平等というが、自治会等がなくなって行政は危機感を感じないのか。高齢者の見守りなど、地域のシステムは機能しなくなる。「私はできないけど、誰かがやってくれるだろう」では済まないと思う。
自治会や地区会の運営・存続については、これまでも課題とされてきた。自治会を解散した地域が、解散前と同じ市民生活ができているのかという情報やデータが公表されてない。
地域に団体がありすぎるように思う。思い切った市民活動の再編を。必要な団体だけを残し、その団体が発信したらすぐに実現するような抜本的な改革をしてほしい。
孤独死や独居対策について、自治会任せでなく、市としてしっかり対応してほしい。
職員の仕事が甘い。地域に出てきてほしいと言っても出てこない。行政が変わらないと何も変わらない。市民の代表として議員が変わらせるための努力をしてほしい。
◎安全・安心
ニュータウン地域で小学生の朝の見守り活動をしているが、信号無視の車もあり、とても危険に思う。市内でも危ない場所は多々ある。通学時間帯に警察官に立ってもらふなどの対策を黒山警察署に要望してほしい。

【★一般質問】

Bグループ

◎議会・議会報告会

各地域の団体の集まりに参加して意見を聞いてはどうか。

参加している人は高齢者が多い。10代の若者など、これからの狭山の将来を意識してもらえる年代の方に積極的に意見を聞けるようにしたらいいと思う。学生の声も取り入れたらどうか。

議場の傍聴席の声が聞こえにくい（YouTubeのほうが聞きやすい）

SNSを活用して、議会報告会にいろいろな世代の人が参加できるように周知することや、議会報告会の内容も時間を長くするなど中身の充実を。

もっと意見が出せる場があればいいと思う。議論の場が大切である。

◎防災

今年は、防災に意識が向いている年だと思う。猫・犬の飼い主は災害時の避難に不安を感じている。ペット同伴避難が当たり前になれる地域をめざしていけたらいい。子ども・高齢者・障がい者、誰もが助かる防災を意識してほしい。

◎まちづくり

人口減少・高齢化の課題にどう取り組むか市の施策にかかっている。

近大跡地やそのほか開発されようとする市内の土地を活用し、人口を呼び寄せる取組を。税収増加やニュータウンの高齢化・空き家対策、若い人の他市への流出を防ぐ取組や企業誘致など。

若者が定着しない。職場が近くにないことが要因の一つ。他市町村と連携して働く場を作る政策を。

近大が移転し、跡地はどうなるのか。帝塚山大学の学生が減ってアパートやハイツの空き部屋が増えているが、近大移転でもっと進む。

働く場所が必要。誰もが働いて、住みやすいまちに。元気な高齢者が働ける場所を。

近大移転後の人口をどう保つか。障がいがあっても、子どもも、年をとっても住めるまちづくりを考えていく必要がある。
人口減少への対策として、ワーケーションの取組を。通勤しなくていい、自宅で働く時代、できる環境を整えることが必要。
DX（IT）発展させることが大事。徳島県でワーケーションの事業がある。例えば、学校を持っていないミネルバ大学（キャンパスは置かずに学生寮だけを各都市に設置し、何年かで滞在都市をかえていく）の学生寮の拠点のひとつになれば、人・若い世代やこどもたちがくる。短期的なものではなく長期的に子育ての世代が参画できる取組・誘致を考えたらどうか。小学生は多いが中学生は他市に出ていってしまい少ないと感じる。
自然も近くかつ利便性もある場所なので、地の利を活かした魅力を発信していったらどうか。行政や議員が考えてほしい。
物理的な企業誘致じゃなくても、DX を生かした施策が有効である。
高齢化・人口減少の課題。今熊地区ハイタウンは600世帯あるが、独居の割合が多い。高齢者が多く移動も困難であり、コミュニティバスを通してほしいと過去に要望したが、私有地であるため難しいとのことであった。活動したいけど動けない高齢者への対策を求める。
少子化対策として、教育の場を市内に作り、優秀な人たちを集める。
大阪狭山市内に起業できる場がない。島根県は教育費用を高校生まで無償にするも。地元で大学や働き先がなく、税金使って教育環境を整えても結局は外部に出ていくのが現状。市内に働く場所を作り、人口減少を食い止める手立てを。
大阪狭山市は観光客を誘致するインバウンドをめざすより、住んでいる人が住みやすいまちをめざすのか。狭山池にも観光バスが停車していることもある。
大阪狭山市はどちらかというと恵まれていると思う。人口減も食い止めている。住みよい、安心安全なまちであると思うが、こどもたちの目の輝きがなくなっているように思う。子どもたちが明るくいいき、今日よりも明日が輝くような未来になるような大阪狭山市に。
金剛駅周辺を賑わいの拠点と言われてきたけど、全然発展していない。家族向けの飲食店などもない。南海電鉄と協議して、開発するべき。 【★一般質問】

狭山神社までの荒れ地を整備して自然公園にして、参拝までの道づくりするなど、金剛駅とのアクセスを。家族が訪れる場所にしてはどうか。
そよら金剛横に建設されている分譲マンションに、富裕層でなく、若い世代が住むことができるような条件を開発業者に提案できないか。
金剛駅に市役所を持ってこないといけないと思う。
目玉が必要である。(過去：中学校の給食、下水道の完備で人口流入した。)
まちづくりのコンサル市場調査などニーズ調査をしたらいい。
近大病院跡地利用の市民アンケートをなんのためにとったのか分からない。積極的にアンケート結果に基づいた開発交渉をするべき。
子育てに力を入れることが大事である。市長も子育て日本一をめざすとしている。市民の活動もあり、子ども医療費助成制度の助成が拡充した。
決算は黒字だから市民の意見を取り入れてうまく財源を活用してほしい、なにもしていないからお金が余ってきているのではないか。
住みよさランキング大阪府で1位であった。安心度が大阪府で一番高い日本一をめざしてはどうか。ランキングなど客観的な指標がいいと思う。
大阪狭山市の人口は大きく減らないが、今後平均寿命はのび、財政は圧迫していく。楽しんで住み続けられるよう議論していけたらいい。
◎教育・スポーツ
スポーツはひとつにまとめる力、盛り上げる力をもっている。スポーツは大切であり、国もスポーツ庁を設置している。市役所にも、過去はスポーツを名前にした担当課があったが、今はスポーツの名前がどこにもない。行政からスポーツの字が消えており、担当もおらず、組織体もない。過去は行政も力をいれていた。子どもを育てるなかで、スポーツの大切さを考えてほしい。 スポーツを通して子育てしやすいまちをめざしてほしい。学校教育だけでなく、社会教育に力を入れなければいけない
◎ニュータウン・近大跡地
近大が移転し、人口減少の不安。跡地の不安。

バスで近大に通勤する人が多い、バスの利用客が減り、バスの便数も減り、ますます便利が悪くなると思う。運転免許証も返納したら不安しかない。

◎その他

さやま池での花火を来年も開催してほしい。打ち上げ時間を延ばし、規模を拡大してほしい。募金やクラウドファンディングで資金集めをしてはどうか。

さまざまなアンケートがあるが、アンケートの取り方について検討を。紙でなく QR コードを活用すると若い世代の声が聴ける。

事前に寄せられたご意見

1.

意見交換会のテーマ、希望していたことだったので嬉しいです。残念ながら別用で参加できませんが幅広い世代が参加され、新たな一歩が生まれる時間となるようご盛会をお祈りします。

多くの企業が撤退する現況、小さい市であることのマイナスが目につきやすいですが、小さいから、声が聞きやすい・まとめやすいと切り替えて、幸福度(満足度)NO.1の街になりますように！

とりあえずは、議論する、取りまとめる運営力 No.1 をめざしてはいかがでしょうか。多くの人の参加、高校生、中学生、小学生もいい考えを持っている気がします。しっかり語れる故郷を持てることは、一生涯の財産になると思います。

ローカルラジオ局の設置、郷土資料館の充実、地域産業 農・工・サービス業への関わりを教育、生涯教育の中で大いに取り入れる。

今回の公共施設のリニューアルに悔いがのこることのないような運営をお願いします。

2.

(西山台旧公団在住)

「めざす姿」を考えることは、今からの何十年か先のあるべき姿を考え、20年後、10年後、5年後、そして今年はどうすべきなのか、何をすべきなのかを考えるとということです。

ますます進む超高齢少子多死社会の中、2025年問題が言われていますが、市の高齢化率は28%強でも、当狭山ニュータウンは40%越え、とりわけ府営は50%越え、旧公団も50%近く、しかも高齢単身者がどんどん毎年増え、すでに2025年問題には数年前から突入しているのが現状です。

当旧公団は民間の重合住宅、分譲が大半、建て替え等すべて自分たちで賄うのが原則です。当管理組合の見通しでは、費用等から建て替えはなく、老朽化を少しずつ

修繕していくだけ、築 53 年、もって 20 年 30 年と言われます。850 世帯、面積、人口を考えても市として捨て置けない地域でしょう。 老朽化、廃墟化が進む一方のこの地域、そこに住み続け身動きの取れない高齢者を中心とした住民を、どのように当市のめざす姿の中に位置づけるのか、そこを議員はどうお考えなのか、住民、行政、議会、ともに考えていく旧公団の未来の地域づくりについて、話し合いたいです。 【当日参加者】
3.
「大阪狭山市のめざす姿」 子供のころから、農業、工業、サービス業、議会、など色々触れられる街、生きるという教育の充実した、生きることを楽しめる幸福度の高い街、というのがいいと思うのですが、いかがでしょう。
4.
①さやりんバスの利用増について 大阪狭山市循環バスを利用しています。100円で利用できるバスは高齢者にとって大切な交通手段であります。 提案例としては利用者の少ない時間帯限定1乗車50円の敬老パスポート発行していただき、市役所・公民館・さやま荘・ららぽーとへ行く気を啓発していただきたいです。
②民生委員児童委員について 民生委員児童委員の任期は後1年となりました。地域地区会等団体が消滅する事例がある中で、任期更新を迎えて全ての地域に民生委員児童委員を配置出来る策を地区会や自治会並びに担当部署間で連携していただきたく思います。
③南海金剛駅西側地域整備について ここ2カ年のうちに高層マンションや戸建て住宅が建設されますが、大阪狭山市として各種の取り組みされている内容を教えていただきたく思います。 また、大阪狭山市駅周辺は市の中央駅だと思います。しかしながら貧相なイメージです。南海電鉄さんと賑やかになる改良策があればご紹介ください。

●令和6年招集12月定例会議会 一般質問（代表質問）

議員の質問

西山台公団住宅にお住まいの方からの意見で、高齢者を中心とした地域で、どのように当市のめざす姿の中に位置づけるのか、そこを議員はどうお考えなのかとの問いかけがされ、「住民、行政、議会ともに考えていく未来の地域づくりについて話し合いたい」との内容であった。市としてできる取組について伺う。

市の答弁

マンションは私有財産の集合体であり、管理の主体は、あくまでもマンションの区分所有者等で構成される管理組合である。しかし、本市としてもマンションの管理状況、建物の老朽化や区分所有者の高齢化の状況等を考慮すると、マンション管理適正化に関する促進のための施策を講じていく必要があると認識している。そのため、本市では、大阪府分譲マンション管理・建替えサポートシステム推進協議会と連携し、マンション管理の相談体制の充実を図り、耐震診断の補助制度もあわせて周知してきた。

また、令和4年4月に「マンションの管理の適正化に関する法律」が改正されマンション管理計画認定制度が創設されたことを受け、令和5年度に旧公団狭山住宅を含めた市内すべての分譲マンションを対象にアンケートを実施し、現況の管理体制や、今後の改修、建替えの意向等の把握を行った。本年4月にはマンション管理計画認定制度に関するチラシを作成し、市内すべてのマンションの管理組合に配付するなど、適正なマンション管理の促進に取り組んでおり、狭山ニュータウン地区内において、管理計画の認定を受けられたマンションもある。

高経年マンションにおける区分所有者の高齢化等については、本市だけではなく、全国的な問題であることから、国・大阪府の動向を注視し、本市として対応できるものがあれば、調査・研究していきたいと考えている。

議員の質問

ボランティア活動、自治会や地域での各種事業で活動をされた方へのさやりんポイント付与について

市の答弁

さやりんポイント事業は、令和7年度までを目途とした実証事業と位置づけ、まずは、本市が実施する事業のみを対象に、取組を進めている。

今年度は、本事業の令和8年度以降のあり方について、5月1日に設置した大阪狭山市地域ポイント事業検討委員会の幹事会において、効果検証や先進事例について、議論を重ねた。

さらに、関係部長で構成する地域ポイント事業検討委員会において、幹事会での議論を踏まえ、他の自治体の導入事例をはじめ、システム提供事業者の直近の動向など、様々な視点から、検討を進めているところである。

引き続き、庁内関係部署とも連携を図りながら、地域ポイント事業検討委員会において、議論を継続し、令和7年度の早い時期に、今後の方向性を取りまとめていきたいと考えている。

●令和6年招集12月定例月議会 一般質問（個人質問）

議員の質問

府道富田林泉大津線に接する大野東の住宅地からの通学路の一部では、歩道の確保ができておらず横断歩道もない状況で、事故が起こりかねないと不安の声があがっており、安全対策を求める。

市の答弁

本市では、平成27年に「大阪狭山市通学路交通安全プログラム」を策定し、通学路における交通安全確保の推進を図るため、プログラムに基づき、毎年9月に教育委員会から学校・保護者に対し、危険箇所の抽出を依頼し、教育委員会をはじめ、学校・保護者・道路管理者・黒山警察署など関係機関と現地立会の上、実際に危険と思われる箇所について、路面表示や啓発看板の設置など、現地の状

況に応じた安全対策を実施している。

府道富田林泉大津線の歩道の確保については、過去からもこの路線全体の安全対策について、地元地区から要望があり、道路管理者である大阪府では、歩道の未整備区間について、側溝を改良して蓋を設置する工事やコーンポストの設置、法面を利用した張出し歩道を設置するなど、道路を少しでも拡幅し、歩行者空間をできるだけ確保する交通安全対策を実施してきた。

本市もこれまで、地権者との交渉など、積極的に大阪府と協力して事業を進めてきており、今年度も同路線において、一部区間ではあるが、地権者の合意を得て、大阪府による歩行者空間の拡幅工事が始まっている。

しかし、当該路線には構造的に歩行者空間を確保することが困難な箇所もあり、そういった箇所については、路面表示や啓発看板の設置などの交通安全対策を検討していきたいと考えている。

議員の質問

狭山ニュータウンの活性化について。

市の答弁

狭山ニュータウン地区の再生・活性化は、住民等により構成する「狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議」と、市長の附属機関であり、学識経験者や市民団体の代表者、関係事業者などにより構成する「狭山ニュータウン地区再生連絡協議会」を両輪として推進することとし、市、地域住民、関係事業者等が連携して、様々な取組を進めている。

毎年度の取組内容については、連絡協議会において共有し、PDCAサイクルの考え方に則り、さらなる取組の推進を図ることとしている。

現在、再生推進計画策定から3年が経過する中で、4つのシンボルプロジェクトについては、推進会議が主催する「狭山ニュータウン魅力発見フェスタ」が4回開催されていることや地域包括支援センターニュータウンサテライトでの相談体制の拡充などの成果が上げられている一方で、情報発信や空きスペースの活用については、より多くの市民参加、担い手の確保が必要となるなど、様々な課題

が表れている状況であり、それぞれのプロジェクト内容やP D C Aによる進捗管理体制の見直しの必要性を感じているところである。

しかし、今夏にはファミリーロード商店会等と連携した「未来を育むふれあいまつり」(残念ながら台風のため中止)が推進会議により企画されるなど、市民参加の輪を広げる取組が進められている状況もある。引き続き、市、地域住民、関係事業者間の連携を深め、より多くの市民参加、担い手の確保に向けた取組方策を検討していく。

さらに、4つのシンボルプロジェクトのロードマップが令和7年度以降の具体的な記載がないことや、近畿大学病院等移転跡地の土地利用が具体化していくことなどを踏まえ、令和7年度以降、シンボルプロジェクトを効果的に推進する体制などについて、推進会議との連携のもと、連絡協議会などで検討していく。

また、近畿大学病院等の移転に関しては、本年1月に、医療法人せいわ会が後継病院の優先候補者として公表されるなど、具体化が進められている。今後、移転跡地の土地利用計画や府営狭山住宅の集約建て替え事業が具体化することから、これらの事業が、狭山ニュータウン地区再生や本市の発展につながるよう、協議調整を進めるとともに、新たにこれらの事業に参画する事業者等を、狭山ニュータウン地区再生の担い手として活用する方策を検討するなど、狭山ニュータウン地区の再生を推進していく。

議員の質問

住み続けたいまちの実現について。

市の答弁

本市におけるまちづくりは、昭和40年代に始まった狭山ニュータウンの開発や近畿大学医学部附属病院の開院といった民間投資をはじめ、高度経済成長を追い風に、インフラ整備や教育環境の充実など、ハード・ソフトの両面で取組を進めながら、発展を遂げてきた。その後、長期にわたる景気低迷の時代を迎え、少子高齢化・人口減少社会へと移行することになるが、その時々々の時代背景や取り巻く環境のもと、他市に先駆けた施策や事業などに取り組みながら、まちづくりを進めてきたところである。

現在、取り組んでいる第五次総合計画の中間見直しについては、まちづくりの中心に「人」があるといった基本理念や、めざすまちの将来像を含め、根幹となる部分は変えない方向で考えている。その上で、これまでの施策の進捗状況や本市を取り巻く情勢の変化等を踏まえ、新たな取組や既存事業における取組内容の充実を図る予定である。

当時は先駆的であった本市の取組や優位性も、時代の経過とともに、全国的に一般化・普遍化しているものもあるということは認識をしており、人口減少が全国的に進むなか、子どもから高齢者に至るまで、すべての人に選ばれるまちとしての魅力や価値をより一層高めていくことが求められているものと考えている。

こうした状況を踏まえ、近畿大学病院移転後の跡地を含めた狭山ニュータウン地区の再生や活性化をはじめ、公共施設の再配置などのまちのリメイクにも着手しており、今後とも、市民の皆様のニーズを的確に捉え、真に求められる施策や事業にしっかりと取り組むなかで、市内外、世代を問わず広く皆様にまちの魅力を感じていただけるような、新たな強みや優位性についても見出していきたいと考えている。

総合計画に掲げるまちの将来像「水・ひと・まちが輝き みんなの笑顔を未来へつなぐまち」を実現し、ひいては、誰もが大阪狭山市に住み続けたいと思っただけのようなまちとなるよう、引き続き、計画に沿って各施策・事業を推進していく。

議員の質問

金剛駅周辺をにぎわいと魅力があふれる市の中心拠点に

市の答弁

金剛駅周辺については、第五次総合計画や都市計画マスタープラン、現在策定中の立地適正化計画においても、駅周辺活性化エリアや中心市街地拠点と位置付け、都市のにぎわいと魅力があふれる場の創出による拠点形成を図ることとしている。

金剛駅西口については、そよら金剛の開店や隣接のマンション建設も進められており、本市においても、市道狭山東村線の歩道拡幅や市道狭山環状線に新たな

バス停の設置、西口トイレの洋式化など、施設整備も行ってきたところである。

さらに、現在策定中の立地適正化計画には、交通結節点の空間価値・機能の維持向上も掲げる予定で、バス・鉄道・タクシー・徒歩・自転車・自家用車など、複数の交通モード、複数の路線系統の乗り換えなど、交通利便性の高い、大阪南部の核となる広域的な交通結節点の形成をめざすと位置付けている。

本市では、金剛駅における交通結節点の機能がさらに強化でき、立地適正化計画に位置付けする中心市街地拠点にふさわしいまちとなるよう、公共交通事業者と協議を行い、まちの美装化や道路整備を行うなど、市として必要な整備を進めていきたいと考えている。